

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第16回)

PROCEEDINGS OF THE 16th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1992)

国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 16th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1992

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,

Tokyo, 142

第16回

目 次

あいさつ 小山 弘 志 …………… 3

研究発表

戯作における開帳の見立物研究 崔 京 国 …………… 13
— いわゆる「とんだ靈宝」の受容 —

人と名 Emmanuel LOZERAND …………… 41
— 鷗外の歴史小説と史伝における人名について —

『沈黙の塔』前後の森鷗外 劉 岸 偉 …………… 58
— 周氏兄弟の目を通して —

福沢諭吉とレオン・ド・ロニー 谷 口 巖 …………… 69
— 「植えてみよ花のそたため里はなし…」考 —

幸田露伴論 渦 沼 誠 二 …………… 82
— 『露伴』と十九世紀英国文学 —

幸田露伴と近代 栗 田 香 子 …………… 111
— 「一刹那」から『弓矢の家』への三角関係の推移 —

モダニズムとしての私小説 中 川 成 美 …………… 121
— 『仮装人物』の言説をめぐって —

中西伊之助と朝鮮文壇 呉 皇 禪 …………… 134
— 朝鮮プロレタリア芸術同盟の結成と関連して —

津島佑子と山姥 Amy CHRISTIANSEN …………… 147

シンポジウム

「近代化の中の日本文学」 …………… 157

公開講演

文学の「近代化」とジャンル地図 Wolfgang SCHAMONI …………… 215

漂泊者萩原朔太郎 Mikołaj MELANOWICZ …………… 239

記 録

第16回国際日本文学研究集会記録（1992） …………… 252

参加者名簿 …………… 260

国際日本文学研究集会委員名簿 …………… 266

あいさつ

小山 弘志

ただいま司会者より申し上げましたように、今年は当館設立後二十年という年にあたります。それを記念して、第16回すなわち今回の国際日本文学研究集会は、例年よりも会期を一日多くして、三日間開催することにいたしました。従来通りの研究発表九つと公開講演会のほかに、シンポジウム一つを加えて、三日間としたのでございます。

プログラムでおわかりになりますように、海外から何人もの方に特にお願いいただきました。このような企画が実現できましたのは、文部省より国際シンポジウム開催経費の交付を受け、また日本学術振興会の援助も頂戴したからでございます。おかげさまで、当館創立二十周年記念というのに値する、充実したものになりました。

毎回申し上げていることではありますが、私どもの主催するこの集会は、館外から何人もの委員の方に御参加いただき、館内の数人を加えた国際日本文学研究集会委員会において、応募書類を選考して採択を決め、全体の構成を考え、プログラムを作っております。その館外の委員とは、委員長として国際基督教大学の福田秀一教授、アラン・ターニー・清泉女子大学教授、桑川光樹・明治学院大学教授、芳賀徹・国際日本文化研究センター教授、平岡敏夫・群馬県立女子大学長、山下宏明・名古屋大学教授、の諸先生であります。今回の場合は、二年以上も前から委員会でいろいろと企画を御検討いただきまして、その結果、このようなプログラムができました。そして、海外からの諸先生もすべて日本に御到着になり、予定通り実施できるようになった次第でございます。

研究発表九件は、例年のように、本日これから六つを、明日午前中に三つを行います。その九件のうち八件は、応募十六件の中から採択いたしました。残りの一つは、全体のバランスを考えて、劉岸偉さんにこちらから特に依頼して発

表をお願いしたものであります。

明日の午後のシンポジウムのテーマは、「近代化の中の日本文学」であります。トリート教授、オリガス教授、日本近代思想史御専攻の鹿野教授、亀井教授の四先生にパネリストをお願いし、司会は平岡委員です。コメンテーターとして、尹、タイラー、ヒジャ・キルシュネライトの三先生をお願いしてあります。さまざまな角度からの御提言、そして御討論が期待されます。

第三日、すなわち明後日の午後は公開講演会でございます。シャモニー教授とメラノヴィッチ教授とに講演をお願いいたしました。シンポジウムのパネリスト・コメンテーターの五人の外国人諸先生とシャモニー先生とには、今回の集会のために、ごく短い期間ながら御来日いただきました。御多用にもかかわらず御協力賜り、まことにありがたく存じます。また、メラノヴィッチ教授は当館外国人研究員として一週間ほど前に御着任になった方で、明年四月初めまで私どもと共同研究を行うことになっております。実は、メラノヴィッチ先生には昨年の集会でも研究発表をお願いいたしましたし、また、オリガス教授は昨年度の当館外国人研究員で、昨年の集会では公開講演をお願いいたしました。両先生には重ねて御協力にあずかることでございます。

以上述べましたように、講師諸先生はじめ多くの方々の御好意によって、このようなまことに充実したプログラムになりました。主催者として深く感謝いたしますとともに、この三日間の集会が実り多いものになりますよう念ずる次第であります。

なお、創立二十周年記念特別展示を、ただいま二階の展示室において行っております。御寄贈にあずかり、また御寄託を受けている貴重な資料を含め、当館所蔵のものご展示でございます。時間のお空きの折に御覧いただければ幸いです。このことを申し添えまして、御挨拶を終わります。

発行

平成5年10月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

印刷所

睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区東陽1-16-12

電話 (03) 5690-7275